様式2　　平成27年8月21日

平成27年度　評価計画及び自己評価

（ 計画 ・中間・ 最終 ）　　広南中学校区　校番　2　学校名　呉市立広南中学校

a　学校教育目標	<広南学園> 自立に向かって 主体的に生きる 「学び」と「ありがとう」 の日本一を目指して	b　経営理念 ミッション・ビジョン	〈ミッション〉 （学校の使命）	大きな夢と志を持ち， 社会に貢献する人材を育成する
			〈ビジョン〉 （将来の学校像）	○深い学びの精神と感謝の気持ち，社会貢献への気概をもつ児童生徒を育て，地域から信頼される学校 ○地域文化の拠点として地域の活性化に貢献する学校

c　中期経営目標を踏まえた現状（進捗状況）と今年度の重点	広南中学校（広南学園）としてスタートして4年目を迎える。校訓など学校のもつ伝統と文化・地域性を基盤として，今年度は「**未知の世界へ～知る・つながる・貢献する～**」をキーワードに，「**課題発見・解決**」また「**協働・探究**」の視点からの教育活動全体の改善をすすめ，礼節・挑戦に加え，新しい価値を生み出せる創造性を校風として位置づける教育活動を展開することで，「学びの変革パイロット校」として生徒のコンピテンシーを育むモデル校としての基盤を確立する。

評価計画（中期経営目標を設定してから　1　・　2　・　③　年目）							自己評価					
重点	d 中期（3年間） 経営目標	e 短期（今年度） 経営目標	f　目標達成のための方策 （こんなことをして達成します）	g　指標 （効果を見とる目安）	h 目標値	9　月			2　月		
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
★★★ 確かな学力の育成	義務教育9年間を見通した学力を育成する	貫「習得・活用・探究」を手がかりとした授業改善	・広南中授業モデルづくり（研究授業一人一回） ・小学校への乗入授業の拡充	生徒アンケート「生活と学習に関する」4項目の肯定的評価（県平均＋5ポイント）	74%	72%	97%	B			
		読書活動の充実	・論語写しの継続 ・読書貯金の継続 ・ビブリオトークの導入	生徒アンケート「読書活動」の項目の肯定的評価(県平均＋5ポイント）	60%	61%	101%	A			
★★ 豊かな心健やかな体の育成	礼節と思いやりを誇り，体力づくりに主体的に取組む生徒を育成する	貫 広南しぐさ・生活習慣の改善指導の徹底	・立腰の指導の徹底 ・生徒会活動の充実による自律的な校風づくり	・教師アンケート「黙想で立腰ができている生徒」の割合 ・生徒アンケート「4項目」に係る肯定的評価	100% 90%	94% 95%	94% 105%	B A			
		体力の向上	・体力強化キャンペーンの実施（2回） ・部活動（文化部も）で走力を高める活動内容の充実	・新体力テスト「50m走」・「立ち幅跳び」を呉市平均記録との比較(＋0.2秒，＋10cm）	90%	95%	105%	A			
		挑戦心の高揚	・「勇気づける声かけ」の実践 ・資格習得「トリプル3」 ・表彰等の活用	・資格検定等に挑戦した生徒の割合 ・生徒アンケート「挑戦意欲」に係る肯定的評価	70% 80%	50% 76%	71% 95%	C B			
★ 信頼される学校	地域に貢献し活力を生み出す学校をつくる	貫 生徒の地域貢献の達成感	・総合的な学習の時間での地域貢献活動PROJECT ・ボランティア活動の充実	・生徒アンケート「地域に貢献した」肯定的評価の割合	90%	92%	102%	A			
		地域との協働体制の基盤作り	・地域人材の積極的活用（6人） ・地域協働「科学クラブ」創設	・生徒アンケート「地域の方に協力してもらっている」肯定的評価の割合	90%	87%	97%	B			
		地域発信力の充実	・HP・学校便り・学年だより・保健だより（月1回以上の発信） ・メディア（新聞・TV）で「ひろみなみ」の魅力を伝える（3回）	・保護者アンケート「学校は地域への情報発信に努力している」肯定的評価	100%	98%	98%	B			

【k：評価】
A：100≦（目標達成）　B：80≦（ほぼ達成）＜100
C：60≦（もう少し）＜80　D：（できていない）＜60

様式3

平成27年8月24日

平成27年度　結果の分析及び今後の改善策（案）

（ 中間 ・ 最終 ）

広南中学校区　校番　2　学校名　呉市立広南中学校

重点	d 中期（3年間）経営目標	e 短期（1年間）経営目標	l 結果の分析（結果と課題をこう考えます）	m 今後の改善策（案）（こう改善します（案））
★★★	（貫）義務教育9年間を見通した学力を育成する	貫「習得・活用・探究」を手がかりとした授業改善	・授業の中で振り返りを「実施している，ときどき実施している」割合は90%だった。しかし，毎時間の実施は20%で，振り返りの仕方も，何人かの生徒に口頭で発表させているのが多い。 （振り返りシート25%，ノート等16%，口頭59%） ・小学校への乗り入れについて，T2としての役割ができている割合は67%だった。できていない理由としては，打合せの時間が不十分であることがあげられている。	・振り返りを推進していくために，授業の最後に5分間の振り返りの時間を確保する。時間確保のため，ICTやワークシートの活用を行う。また，振り返りシート等，振り返りがしやすいものを作成する。 ・T2としての活動を活性化していくために，授業中に児童への声かけを積極的に行う。また，小学校の授業についての学びを中学校へ生かす。
		読書活動の充実	・本を読むことがすき・・・78% ・読んだ本について友達や家族と話をする・・・50% ・家で本や資料などを利用して調べ学習をしている・・・55% ・読書貯金の充実	・読書活動を通してビブリオトークの発表を全員行うことができ，読書に関する交流は行っている。意識付けをしていきたい。 ・読書貯金は6月に一度全校の経過をグラフ化したが，2学期は毎月貯金の経過をグラフ化していく。また，1学期と同様，読書についての交流などを授業を通して意識的に取り組んでいきたい。
★★	礼節と思いやりを誇り，体力づくりに主体的に取組む生徒を育成する	貫 広南しぐさ・生活習慣の改善指導の徹底	・授業中に立腰の姿勢をすることが難しい生徒が多い。また立腰ができていないと注意をすることで，自分たちはできていないという思いを持つようになると考えられる。	・黙想や授業の初め，終わりの挨拶，など様々な場面に応じた立腰のポイントを明確にした指導を教職員全員で意識を持って行っていく。
		体力の向上	・学年が上がるにつれて，呉市の平均記録を上回る項目が増えてきている。特に第3学年の女子の伸びが顕著である。しかし，指標となる「50m走」「立ち幅跳び」については達成度は低い。	・2学期の体力キャンペーンで取組の内容を検討する。 ・保健体育の授業初めに，走力を高めるトレーニングを取り入れる。 ・部活動の練習の中にダッシュ等の内容を取り入れる。
		挑戦心の高揚	・1学期は該当学年の既習事項が少なく検定試験を勧めることが難しいため，2学期から3学期での取組が中心となっている。既に合格している生徒や1年生への勧め方をどうするかが課題である。	・教科の授業での検定問題に取り組み，資格取得・検定挑戦の意義を理解させ，実施を周知するとともに，学級担任と連携して進める。 ・生徒が自ら進んでいろいろなことに挑戦するための取組を文化活動発表会などで意識的に作っていく。
★	地域に貢献し活力を生み出す学校をつくる	貫 生徒の地域貢献の達成感	・地域貢献については目標値を上回っている。地域へのボランティア活動などが定着してきたからではないかと考えられる。	・夏休み中の部活動による砂浜清掃や2学期の文化活動発表会などで地域貢献を意識した取組を進めていく。
		地域との協働体制の基盤作り	・地域の方々30名に協力していただいた。 ・キャリアスタートウイーク前のアンケートのため，2年生の肯定的評価が82%と低めだった。	・日本文化講座や文化活動発表会などの行事で協力体制の基盤づくりを進める。また，生徒に地域の協力していただいていることを伝える。
		地域発信力の充実	・各たよりは，月1回以上発信し，メディアへは2回紹介された。 ・1年生での肯定的評価が93%と低いが，広南安心ネット加入率が47%に低いためと考えられる。	・広南安心ネット加入の呼びかけを行う。

様式4

平成27年10月1日

平成27年度　　学校関係者評価及び改善策

（ 中間・最終 ）

広南中学校区　校番　2　学校名　呉市立広南中学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標，指標の設定の適切さ	A	○小中一貫教育校として，小学校と連携した目標（指標）を掲げている点や生徒実態を的確に把握し，小学校への乗り入れ授業，小中合同授業研究等による意欲的な授業改善や情報発信の充実と地域人材の活用等，保護者・地域との密なる連携と協働を意識した目標設定は高く評価できる。
目標達成のための方策の適切さ	A	○生徒の主体的な学びや思考・表現力の向上に向けて，各教科の授業研究はもとより，年間4回の小中合同授業カンファレンスと授業研究の実施，さらに，読書活動の活性化と表現力の向上を兼ねた「ビブリオトーク」の導入等，新たな試みと確実な実施は高く評価できる。 ○挑戦心の高揚に向けて，各種検定の受検や様々な大会への出品，さらに，郷土愛や自己効力感の高揚に向けて，総合的な学習の時間での地域貢献活動や放課後及び長期休業中を利用したボランティア活動（せとうち海援隊清掃活動）の充実等の方策も適切である。
自己評価の結果と分析の適切さ	A	○各項目において，各種アンケートや学力調査を基にした詳細且つ妥当性・客観性のある分析がなされており，先生方の教育に対する熱意を感じる。
今後の改善策（案）の適切さ	A	○具体的な改善策が考えられ，適切である。今後も，学校の取組や成果と課題及び改善策を，保護者・地域により一層情報発信し，学校に対する協力体制の強化を図ってほしい。
その他	○全教職員が全力をあげて生徒を育てられていることを感じました。授業参観で，生徒たちが落ち着いて勉学に励んでいる姿を見せていただきありがとうございました。 ○ホームページ更新やメール配信，学校・学年・保健だより等による保護者・地域への意欲的な情報発信を高く評価します。今後も継続をよろしくお願いします。 ○生徒の学習意欲と学力の向上，教職員の指導力の向上のための新たな試み，また，地域への貢献を通した自己効力感の高揚や地域との協働を意識した新たな取組の発想・意欲は素晴らしいと思います。今後も，挑戦心をもった子どもの育成をよろしくお願いします。 ○授業で，語尾まではっきりと聞こえる声で発表する習慣を，小中が連携して身に付けさせてほしい。また，校内だけでなく，地域でも大きな声であいさつできる児童生徒の育成をお願いしたい。	

※　評価は，A（とても適切），B（概ね適切），C（あまり適切でない），D（まったく適切でない），N（分からない）

学校関係者評価を受けての今後の改善策	○全教科で「習得・活用・探究」を常に意識し，習得においては，視覚支援や時間短縮も考慮したICTの有効活用等を，思考力・表現力の育成においては，個人思考から，ペア及び小グループ，班活動を利用した集団思考・発表につなげるなど，教材・教具の開発や指導方法・授業展開の工夫改善を図る。さらに，各教科で得た学力を「総合的な学習の時間」での探究学習につなげ，課題設定と課題解決に向けた取組の充実を図る。また，一方で，授業規律の確立や社会性の育成に向けて，挨拶や返事，立腰，発表の仕方等，教師・生徒の評価方法の工夫による意識の高揚を図りつつ，粘り強い指導を継続する。 ○「総合的な学習の時間」を活用し，第1学年では，落語家口演・指導による「落語」の取組を通して人を楽しませる喜びや表現力の育成を，第2学年では，起業家招聘による講話や夏休みの職場体験学習の貴重な経験や知識を基にした「起業プロジェクト」の取組を通して職業観や地域への貢献心の育成を，第3学年では，青少年赤十字加盟を機に，赤十字調査を基にした「創作劇」を通して表現力の育成，世界を視野に入れた貢献心の育成を図る。さらに，それらの取組を文化発表会で保護者や地域に披露することで，本校の教育活動に対するより一層の理解と協力を得る。 ○自己効力感の育成において，学校行事や小中合同行事の計画・実施はもとより，日々の授業や部活動，さらに学校生活の様々な場面を通して教師の評価やお互いを認め合う学級集団づくりを組織として推進する。また，学校・学年・保健だよりやホームページ及びメール配信を意欲的に行い，学校と家庭・地域が協力して豊かな心の育成を図る。